

前回のつづき。

千島・日本海溝地震の被害想定が昨年末に発表されたが、数字の垂れ流しで、社会的意義づけ、つまり、被災想定地域の東北、北海道が津波にのまれたら、どういった社会的影響があるのかという見解が全く示されなかったことに疑義を呈した。

そこで、この被害想定に審議に参加した防災研究者と頭をひねってみた。まず、北海道、東北北部が、想定通り被災すると、人口空白区となる。そうすると、いわずもがな、対ロシア、中国への防衛問題が生じてくる。かつて、ソ連と対峙していた北欧の国々は、ソ連軍が上陸しそうな沿岸部に、補助金を落とし、漁村を維持し、防衛にあたらせていた。国民も心得ていて、これら沿岸部で揚げられる魚介類を安く買わない。



東日本大震災の被災地をはさみ、北と南に大津波地震が想定されている。これで、今後数十年以内に太平洋沿岸部全域が大津波の直撃を受けることが明らかになった

もうひとつ、食糧確保つまり食糧安全保障上の問題もある。日本の食糧自給率は38パーセントで、先進国ではほぼ最下位クラス。北海道の農地が使えなくなると、自給率が8パーセント減少するといわれる。なぜこのような事態が想定されるのか。くだんの防災研究者は、被害想定どおり大津波地震が起きると、南海トラフ地震の被災想定地域とは異なり、平地がどこまでも続くところだから、どこまでも大津波が迫ってくる。もともと人口密度の小さいところだから、津波による死者の数の人口に占める割合は大きくなる。地域で大多数の家族、知人が亡くなったら、復旧・復興の意欲がそがれることは容易に想像できる。少なくとも一定期間は、復興放棄ともいえる現象が広範囲に起こり、回復への道のりは遠くなるだろう。その間、主たる産業である、農業・漁業への影響は大きくなる、というわけだ。

そう思って、日本地図をみていると、千島・日本海溝の想定がでて、北方領土から九州まで太平洋沿岸部が“全滅”する事態になる。

エライコッチャ！である。ちなみに、「エライコッチャ！」の言葉を吐いたのは、神戸市在住の2歳児。阪神大震災が起こる直前、寝床で「エライコッチャ！」と叫んだのである。と、前兆現象の証言を集めた、岡山理科大の研究室がまとめた著作にのっていた。

(令和4年1月)